

2 月 TOF 例会案内

今月の強調テーマ : TOF (Time of Fast : 断食の時)

今月は、巻頭言にありまよう TOF (Time of Fast = 断食の時) 例会です。おにぎり 2 個の夕食となりますが、ご協力ください。卓話には、同時通訳者として、翻訳者として活躍されている、利根川恵子さん (川越クラブ) をお招きしました。

同時通訳には、瞬時に通常の何倍も脳を使うそうです。ある時は、話す人に同化し、ある時は話す人と聞く人の関係を取り持ちます。どのような事前準備をするのか、知らない単語が出てきたらどうするのか、通訳に責任はあるのか、など興味深いお話をうかがえると思います。ぜひお誘い合わせてご出席ください。

日時 : 2 月 20 日 (木) 18 : 45 ~ 21 : 00

会場 : 「ウェルファーム杉並」 4 F 集会室

(杉並区天沼 3-19-16 03-535-7330)

会費 : 500 円 (どなたも)

担当 : A 班 (高嶋、鳥越、吉田)

HAPPY BIRTHDAY

8 日 高嶋美知子 19 日 神崎 陽子

受付 鳥越 成代
司会 高嶋美知子

開会点鐘 篠原 会長
ワイズソング (いざ立て) 一 同
聖書朗読・感謝 吉田 明弘
挨拶・ゲスト&ビジター紹介 会 長
会食

卓話者の紹介と進行の説明 吉田 明弘

卓話 「英語同時通訳の泣き笑い」
利根川 恵子さん

ハッピーバースデー 会 長
諸報告 (地域奉仕、会員増強、国際・交流、ユース) 会 長 他

YMCA 報告 担当主事・木川 拓

ニコニコ献金 一 同

閉会点鐘 篠原 会長

新年度役員を選出

- 1 月第 2 例会 -

日時 : 1 月 23 日 (木)

19 : 10 ~ 21 : 00

会場 : ウェルファーム杉並

出席者 : 神谷、篠原、高嶋、鳥越、

本川、村野、吉田

< 確認事項 >

- ① 1 月記録を確認した。
- ② 1 月 16 日現在の会計報告 : 報告書の通り承認した。2019 年 7 月以降の各月の会計報告書が再配布された。
- ③ 次期クラブ三役を 1 月 12 日、東京 YMCA 東陽町センターで行った臨時役員会で決定した。
会 長 篠原文恵 (留任)
副会長 大野貞次 (留任)
書 記 本川悦子
会 計 石井元子
その他の役員、事業委員は、3 月第 2 例会で決定する。
- ④ 各行事、催事への出席予定者を確認した。

< 協議事項 = 例会関係 = >

▼ 3 月東京世田谷クラブとの合同例会 : 当クラブがホストを務め、会場はウェルファーム杉並。卓話者は黒田知代さん。卓話題、プロフィールは後日確認する。

▼ 4 月例会

卓話者 : 田上かつみさん (熊本むさしクラブ田上正さんメネット)

< 協議事項 = 例会関係以外 = >

- ① 小山多喜子さんの 2019 年 12 月末日退会を承認した。
- ② 継続審議だった「BF 献金等の任意献金」は予算通りに執行する。
- ③ メネット会費として国内プロジェクト及び東日本大震災復興支援に各 5,000 円納入する。
- ④ デンマークで行われる IYC の参加者推薦は該当者なし。
- ⑤ ブリテン 3 月号企画案を神谷編集担当からメール提案する。
- ⑥ ブリテン送付先を決定した。

(書記・神谷幸男)

卓話者紹介

利根川 恵子 (とねがわ・けいこ) さん

国際基督教大学で「会議通訳法」を履修。大学院在学中、サイマル・インターナショナルのアルバイトとして国際会議通訳を経験。

埼玉県立高校教諭、大宮市教育委員会で学校教育、さいたま市長公室秘書課で国際交流などを担当、在職中は、UNESCO 関連事業、市主催国際交流事業、市幹部職員・議員等視察訪問団等の通訳も担当した。現在、さいたま市国際 NGO ネットワーク副代表。

ワイズメンズクラブでは、2016-17 年度東日本区理事、現在ブラザークラブ国際事業主任、東日本区文献・組織検討委員会委員長。



1月例会卓話は井上光夫さんの「プライベートジェット機」



正岡子規が愛した根岸子規庵の糸瓜(へちま)棚

卓話は話題のPジェット機 —1月例会報告—

1月例会が15日(木)、ウェルファーム杉並において開催されました。卓話は、『米国のプライベートジェット機の最近事情』の題で、米国で長く関わられた井上光夫さんでした。

スクリーン上に飛行機の写真が次々映され、それぞれの機種について説明があり「オオッ飛行機、へえー」と見入りました。

民間航空機は大きく分類すると航空運送事業(旅行で乗るエアライン、旅客・貨物を運ぶ)と、一般航空として、①レジャー飛行自家用機による飛行 ②スカイスports ③産業航空(測量、空撮、チャーター機、航空機使用事業) ④公共機関による運航(警察、消防、航空局、海上保安庁)に分けられるそうです。

プライベートジェット機は、アメリカに13,000機、日本に90機あります。日本は鉄道が発達し移動は短時間で済みますが、アメリカは広いので都市を結ぶのも飛行機、スポーツ選手など移動に使用され、中型機(19人~人乗り)需要も多いのです。価格的には豪華なBoing747-81BBJは450億円、B787は250億円、B737・A320は85億~120億円から、ガルフスタン(米)G650(19人乗り)は0億円、ボンバーディア・グローバル(カナダ)は78億円、ロングレンジ機は65億~80億円、

ベリーライトジェット・ホンダは5億8,000万円、小型ピストン機cessna172は3,000万円です。

三菱もビジネスジェットMU-2、MU-300を作っています。飛行機は機体を運行するだけでなく、FBOという地上業務、給油・駐機・整備修理・運行事務・機内食手配・地上交通手配(リムジン・レンタカー)が含まれていて、市場規模は大きいのです。

その後の質問・感想タイムも盛り上がり、いつもは乗るだけの飛行機を全く別の角度から学んだひとときでした。(村野絢子)

例会出席者:<メンバー>石井、大野、神谷、河原崎、木川、篠原、高嶋、本川、村野、吉田、<メネット>神谷、<ビジター>藤井寛敏(東京江東)、長谷川あや子(東京八王子)、田上正(熊本むさし)、<ゲスト>大河原好二、恒石浩志、宮崎加奈子、井上光夫(卓話者)、<MU>神崎(在京新年会)、鳥越(12月第2例会)

賑わった「侘びの根岸」 —WHO 1月報告—

1月25日(土)の241回WHOウォーキングは、「根岸の里の侘び住まい」の下谷根岸。参加者47人。前年1月の「東京丸の内」が36人でした。この差には暖冬以外の何があったのでしょうか。

江戸時代から東の叡山・寛永寺、維新後は、上野駅開業、博覧会、都市公園と、賑わいと文化の

中心だった上野山に比べて、北麓にある根岸は、それを支える人たちの町でした。一方、音無川や田園風景が広がる地で、寛永寺貫主として江戸に下った輪王寺宮の別邸(御陰殿)や、前田藩下屋敷(後に前田侯爵邸)があり、のどかな風情を、正岡子規をはじめ文人が好んで住みました。

今回は、子規庵など、子規ゆかりの地と、御陰殿跡、笹乃雪、御行の松や、入谷鬼子母神、小野照崎神社を歩き、昼食だけ上野山の国際子ども図書館でとりました。

台東区立書道博物館は、元々は、画家・書家であった中村不折の書道に関する重要文化財12点、重要美術品5点を含む個人コレクション。白と黒の世界に圧倒されました。建物も立派。その向かいにある子規庵は前田藩邸の侍長屋、戦災で全焼したものを戦後、復元したもの。襖を開けて子規が現れるのではと思える佇まい。子規の門弟たちが45人座った記録があるそうですが、床を抜いたら大変と、半分に分かれて畳に坐って説明を聞きました。

ワイズの参加:石井・吉田(東京西)、中澤(東京たんぼぼ)、青木、樋口(東京グリーン)、関(元石巻広域) (吉田明弘)

東京YMCAのHPで、WHOの毎月の予告と報告を写真入りで見ることが出来ます。



<http://tokyo.ymca.or.jp/community/2020/01/20200131-01.html>



東京クラブのホスピタリティ —在京クラブ新年会—

2020 年在京ワイズ合同新年会が 1 月 11 日(土)に開催され、約 120 人が参加しました。

第 1 部～第 3 部は東京 YMCA 社会体育・保育専門学校において行われ、礼拝では台風 19 号被災地支援の献金が行われました。

第 2 部では、日本 YMCA 同盟神崎清一総主事、アジア太平洋地域田中博之会長、東京 YMCA 菅谷淳総主事から祝辞と期待が述べられました。

第 3 部では今回の目玉企画である映画「大地の詩(留岡幸助物語)」を鑑賞。明治時代、家庭の温かさを知らない故に不良と化した子どもたちが、これ以上悪に染まらないよう家庭学校を作った留岡イズムストーリーは YMCA も後援しており、子ども教育において、幼少期における家族愛の大切さを感じることが出来る作品でした。

第 4 部では会場を YMCA ホールに移し、ホストである東京クラブがご用意された懇親会がスタート。お寿司やピザ、串揚げに小さな井、そしてデザートまで、次から次へとたくさんの食事には温かい手作り感がありました。

終始和やかな中、クラブ紹介では、それぞれの会員がこぞってクラブの雰囲気をアピール。ピースサインや両手を掲げるその姿は「皆さん、本当にお若い！」そんな印象を受けました。

懇談の中で、会員増強は各クラ

ブ共通課題であることも耳にしました。取組みや理念の共有はもちろん大切ですが、私はこれこそ、ワイズらしさと思いました。皆さんの温かいアットホームな雰囲気を、世代を問わず、自然に共感出来る人が

もっと増えることを切に願います。

(担当主事・木川拓)

<参加者>大野、石井、河原崎、神崎、木川、篠原、高嶋、本川、村野、吉田

在京ワイズ会長会報告

1 月 11 日(土)午前、在京新年会の前に YMCA ホールで在京 18 クラブの会長と担当主事による会長会が行われた。

ゲストの在日本韓国 YMCA 朱宰亨総務と李善幸通訳を交え、今年は 5 グループに分かれての協議があり、新年の挨拶が主な従来からの顔合わせの雰囲気と違い、現在直面している会員減少に立ち向かう幹事さんたちの意気込みが伝わった。

資料として、YMCA 側からの関係要望点とワイズ側からの要望点がアンケート結果の報告書で示され、今後の関係がどうあるべきかが提案されていた。

東京世田谷・東京グリーン・東京北・東京西クラブが集まった私たちのグループでは、①重要度、②緊急度、③実現可能性についての課題が用意され、意見を木川主事が模造紙にまとめ、見える形で認識して貰った。

印象に残った言葉は「改正点を含む継続の必要性」「サーバントリーダーに徹する会長像」「共通認識を見つける」「知力の必要性」「成功例を見つける」などなど、有意義な会長会となった。

(篠原文恵)

YMCA Today

■みなさんはホテル学校にある「写真スポット」はご存じでしょうか。2階エレベーター前の壁には季節に応じた装飾が施され、久しぶりに足を運んだ卒業生が記念に 1 枚、いわゆる『インスタ映え』スポットがそこにあります。足を運んだ記念にぜひ 1 度、試してみたいはいかがでしょうか。

■1 月 6 日、新年職員礼拝が社会体育・保育専門学校を会場に行われ、職員 80 人が出席しました。新年の心得として、古賀博牧師(日本基督教団早稲田教会/東京 YMCA 評議員会会長)に「世界の破局を防ぐもの」と題して説教をいただきました。

■1 月 23 日、東京 YMCA 新春特別午餐会が学士会館(千代田区)にて開催され、約 40 人が出席しました。元サッカー日本代表の金田喜稔氏(一般社団法人日本サッカー名蹴会会長)から「サッカーにおけるスポーツマンシップ」と題して「グッドルーザー(良き敗者)の精神」など、自身の経験をお話いただきました。

■1 月 24 日、台風 19 号被災地支援チャリティーコンサートが日本基督教団霊南坂教会で開催されました。当日は飯靖子氏(オルガン)、飯頭氏(ヴィオラ)、青山学院女子短期大学グロリアス・クワイア(ハンドベル)が演奏され、益金は台風で甚大な被害を受けた社会福祉法人賛育会豊野事業所の復興のために用います。なお東京 YMCA は、長野市北部の中期的な支援拠点「まちの縁側ぬくぬく亭」の運営他、賛育会と協力して被災地支援活動を行っています。(担当主事 木川拓)

意見交換

毎月 15 日に発信

Change! 2022

EMCニュース ワイズドットコムで
配信されます

☆☆ インタビュー ☆76☆ 越智京子さんに聴く

東京たんぽぽクラブ

* * *

越智京子さんは、東日本区初の女性区理事でした。(吉田明弘)



—今日はよろしくお願ひします。いきなりですが、越智さんは、博多育ちですか、福岡育ちですか。

「商人の町、博多です。武士の町、福岡とは気風も言葉も違います。母方は呉服商で代々久留米餅を扱っていました。店で働く人を含めて大家族で生活しました。父は大学の教員でした」

—お祖父さん子だったのではありませんでしたか。

「そんなことはありませんよ。でも祖父には可愛がられ、いろいろ躰けられました」

—たとえば。

「女の子は、どのような家に嫁ぐか分からないからと、いろいろなことを習い経験させてくれました。『人にしてもらったことは、石に書け、人にしてあげたことは、砂に書け』とよく言われました」

—子どもの頃は。

「活発でした。よく教室で立たされました。昼休みに裏山に行き、私がシイの木にのぼり実を落とし、男の子が拾い集めていました。女の子はついてきませんでした」

—運動は得意だったのですか。

「中学では砲丸投げ、高校では卓球。両方県大会にいきました。一砲丸投げですか。信じられませんか。高校では弁論部だったとか。

「部ではなかったのですが、先生に勧められ大会に出ました。県代表になり、朝日新聞の主催で日

比谷公会堂で行われた全国大会 高校生の部で1位になりました。題は『学問の必要性』でした。ここで夫と出会いました」

—ご主人も高校生ですか。

「いいえ、インターンでした」

—音楽の方は。

「小さい時から得意でした。芸大の安永武一郎教授に師事し声楽を習いました。高校では合唱コンクールで県代表になりました」

—音楽の道へ。

「趣味でなく、音楽の専門家になるつもりでした。大学で声楽科を専攻し、卒業後は、匡際芸術連盟に属してフリーランスの歌手として活動し、企業などのコーラスの指導もしました」

—YMCAとの縁は。

「学生時代に福岡 YMCA のボランティアリーダーの経験があります。結婚して、光輝(元東京銀座クラブ・越智光輝さん)が4歳の頃、東京 YMCA 山手センターの体育教室に入れました。とても雰囲気良く、体が丈夫になったので、ずっと YMCA で育ててもらおうと思いました。私もセンター運営委員になりました」

—ワイズにはどうして。

「YMCAに『本日、ヨルダン会』と、掲示が出て、講演会だと思って部屋に入ったら、YMCA で知ってる方、教会で一緒の方、かかっているお医者さんなどがおられ、迎えられました。皆さんいろいろ話していて、講演が始まらない。聞いたら、皆笑い出して、夜、懇談する東京山手クラブの役員会だったのです。『せっかく越智さんが来たんだから食事に行こう』と。それで、自分から入会したのです。1993年でした」

—入会後は、会員増強で大活躍でしたね。次期副会長だった時、区の次期会長研修会に出たいと申し込まれましたね。

「受ける以上、理解してきちっとやりたいのです」

—2002年に女性だけのクラブを

チャーターされました。

「最初から女性だけのクラブを目指したわけではないのです。子どものいじめや自殺が社会問題になっていました。宇都宮 YMCA から秋田正人主事が帰任して山手センター内に子どもの居場所『liby』を始め、それを応援するクラブの創設を頼まれたのです。いろいろ準備を始めたのですが、どうしても男性の理解が深まらない。それで母親の立場からと女性に絞ったのです」

—越智さんは、男性の中にいた方が、力を発揮するタイプとっていましたか。

「そうかも知れませんね。子どもの時からそうでしたから」

—2008年、東日本区では初の女性区理事になられました。心に残る思い出は。

「個人的には、シドニーの国際大会の開会セレモニーに東日本区区旗を持って登壇し、皆さんの拍手をいただいた時のことを鮮明に覚えています。その年はびっくりするほど世界中からクリスマスカードをいただきました。急に世界が広がりました」

—重い病気をされ、現在も副作用で治療中ですが、東日本大震災による津波被災地への「歌の広場」活動を石巻市を中心に続けておられますね。

「震災の1年前に発病したのです。最初は個人として参加したのですが、すぐに東京たんぽぽクラブの事業を立ち上げました。もちろん石巻広域センターからの器材の運搬、会場設営など YMCA や他クラブの方々の応援をいただいています。私自身、これまでに23回、現地に行っています。歌うことが楽しみにしている方がおられますから」

—素晴らしいですね。

「継続は力!一度始めたら最後までやれというのも祖父の教えです」

—有難うございました。

私の大切な物②

村野絢子

ステンドグラス

ローンを組み、夫の友人の設計でわが家を建てたのは、1972年長女が小学校に入る年であった。薪ならぬ灯油の暖炉で火の見える暖房にして、シンボルとなるステンドグラスを入れる事にした。「二匹の魚と五つのパン」を聖書から選び、夫のスケッチを電話帳で探した業者に依頼した。デザインも色もお任せで、完成し玄関ドアの上に入ったのは、色鉛筆で書いたスケッチのままであった。今もそのステンドグラスは昼間には外の光で家の中からよく見え、夜は家の明かりで外を歩く人によく見える。

後に元東洋英和の小学部で美術教師だったステンドグラス作家の今野満利子さんと親しくなり、玄関に入って正面のドアを新しくする時、満利子さんに相談し、「ブドウの枝と実」をテーマにデザインした作品を制作して頂いた。

それだけでは無く、もう一つ5羽のニワトリが自由にあちこち向いている楽しい「5羽の鶏」の作品がある。はめ込む前に銀座の展覧会場に並べたところとても評判がよく、欲しいという声があったという。1点物のこの作品はわが家のお手洗いの使用中のサインとなっている。

わが家にも2か所に作品を残して満利子さんは昨年病死された。フランスのシャルトルで学び、教会や学校などに多くの作品を残し、多くの弟子を育てた彼女の本が今年の夏出版される。楽しみにしている。

**世田谷クラブの例会訪問記**
鳥越成代

2月17日(金)夜、東京世田谷クラブ例会に参加させていただきました。昨年12月4日にアフガニスタンで、中村哲医師が、銃撃され亡くなられた事件に衝撃を受け、卓話で日本YMCA同盟主事、前日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)総主事の大江浩氏が中村氏について語られることを知り、伺いました。

私は中村氏がTVで、アフガニスタンの砂漠化した土地に灌漑用水路を作り、緑に替えた映像を見、その奉仕活動のスケールの大きさに感動していました。

大江氏から、医師である中村氏のアフガニスタンでの活動を映像で紹介され、人となり伺い、最後に「天、共に在り アフガニスタン三十年の闘い」という中村氏の本の紹介がありました。NHK出版で菊池寛賞はじめ、沢山の出版賞を受けている本です。直ぐ購入し、喫茶店に入り読みはじめ、時の立つのを忘れました。現地での記録です。

JOCSが彼のペシャワール派遣を決定し、そこではハンセン病の治療に当たっていたこと。アフガン戦争下の診療所の開設、地球温暖化による大旱魃。アフガニスタンで川にかりうじて残った泥水を飲む裸の幼子の写真姿が、頭から離れません。もう治療どころではないと村人と井戸掘りを始めたこと、ここには日本人青年たちの力があつたとのこと。

その後のアフガン戦争や湾岸戦争、私でもその時の映像は頭に焼き付いている、その爆撃下での様々な奉仕活動。その中で、中村氏達はひたすら地元民のために戦っていた。何故彼は銃撃されたのか、戦争も平和も人間がなすことだと実感させられます。

この機会を与えて下さった東京世田谷クラブに感謝です。そして手作りの温かいおでん、美味しかったです。有難うございました。

編集後記

越智京子さん(元区理事・東京たんぼぼ)の『ワイズインタビュー』を手術、入院される前々日にお願いしました。

TOFの巻頭言は、これまで、メンバーが書いてきましたので、マンネリを避けるため、田中博之さん(現アジア太平洋地域会長・東京多摩みなみ)に書いていただきました。

2月例会の卓話は、利根川恵子さん(元区理事・川越)です。

はからずも、区の表看板ともいえるべき方を並べてしまいました。意図したことではなく、それぞれ事情があつてのことです。

役にある方は、私たちメンバー以上に多忙ですから、あまり1クラブのためにお願いするのも問題があると反省しました。しかし、原稿依頼はともかく、誰もが他クラブの方に、遠慮なく問い合わせたり、アドバイスを求めたら良いと思えました。組織の風通しが良くなりますし、そこにもワイズに参加している素晴らしさがあると思います。(AY)